愛知淑徳大学
全学日本語教育部門
広報誌

第5号
2013年9月30日発行

あっと@JL

全学日本語教育通信

@JLとは？

全学日本語教育部門は、学生の日本語運用力（Japanese Literacy）向上をサポートする組織です。ここから、学内における日本語運用力向上に向けたさまざまな取り組みを広く発信したいという気持ちを、“@”に込めました。

日本漢字能力検定学内団体受検の様子（平成25年6月30日）

特集 検定で学修の成果を測る

愛知淑徳大学では、大学生に求められる文章作成能力と論理的思考力、そして社会生活に役立つ実践的な日本語運用スキルを育むために、段階別・分野別に複数の「日本語表現」科目を開講しています。学生たちは、「日本語表現」科目での学修の成果を、他科目でのレポート作成やゼミ発表の場で遺憾なく発揮しています。

学修の成果を客観的に測定する機会のひとつに「検定」があります。このうち、「日本漢字能力検定（漢検）」（主催：財団法人日本漢字能力検定協会 →【解説1】）と「日本語検定（語検）」（主催：特定非営利活動法人日本語検定委員会 →【解説2】）については、受検の便宜を図るため、年1回、学内団体受検を実施しています。

受検者・合格者数ともに増えています!

過去3年間の学内団体受検結果

（単位：人）

	平成22年度		平成23年度		平成24年度	
	受検者	合格者	受検者	合格者	受検者	合格者
漢検	212	69	286	84	270	113
語検	146	111	160	86	189	102

【解説1】日本漢字能力検定 概要*1

内　容	漢字の「読み」「書き」に対する知識量と、文章の中で漢字を適切に使用できる能力の測定
難易度*2	2　級：高校卒業・大学・一般程度 準2級：高校在学程度

【解説2】日本語検定 概要*3

内　容	語彙・文法・ことばの意味・漢字・敬語・表記の6領域における日本語運用力の測定
難易度*4	2級：社会人・大学生程度 3級：大学生・高校生程度

*1 日本漢字能力検定ホームページより抜粋
*2・4 学内団体受検実施級のみ掲載
*3 日本語検定ホームページより抜粋

次ページへ続きます ▶▶▶

インタビュー 合格者の声

「日本語表現」テキスト（本学オリジナル）

漢検2級

交流文化学部２年
浅野有香さん

学内受検の実施を知ってすぐに受検しようと思いました。高校３年生で、２級の受検に失敗したため、再挑戦したかったからです。

受検勉強には、『本試験型 漢字検定２級試験問題集』（成美堂）を使いました。実際の試験と同様の形式で掲載されていたので、出題領域すべてを偏りなく学習することができました。これに加えて、「日本語表現」の授業でおこなわれていた小テスト*の勉強も頑張りました。小テストは、成績評価に関わるだけでなく漢検対策にもなりましたから、まさに一石二鳥でしたね。

実際の試験では、終了直後に合格の手応えがありました。勉強の甲斐もありましたが、勝手が分からない一般受検会場ではなく、通い慣れたキャンパスで受検できたことも、有利に働いたと思っています。

これから漢検に挑戦するみなさんには、間違えた問題を繰り返し練習して克服することをお勧めします。私にも、勉強中に正答できなかった漢字が本試験でも出題されてしまい、正答を確認しないまま受検したことを後悔した苦い経験がありますから。

語検2級

文学部国文学科２年
杉山朋世さん

以前からことばへの関心が強く、「読む・書く・話す・聞く」ことはいずれも好きでした。語検は、資格が取得できるだけではなく、ことばに関する知識を深めることもできるだろうと、迷うことなく受検を決めました。

準備には、『日本語検定公式練習問題集２級』（日本語検定委員会）を使いました。勉強中は、合格する自信がありませんでしたが、試験前日に公式ホームページに掲載されている過去問題を解いたとき、「合格できるかもしれない」という手応えをつかみました。

試験当日は、比較的楽しむことができました。漢字や四字熟語は、愛読していた小説で目にしたものが出題されましたし、長文読解も楽に解けました。ただ、終了直後は合格できると思わなかったので、認定証を受け取ったときは、喜ぶよりも先に驚いたというのが正直なところです。

受検後は、敬語の使い分けを意識したり、意味の不確かなことばを辞書で確認したりするなど、ことばの使い方をより厳密に把握したいと思うようになりました。その点で、検定挑戦は、自分のためになったと思っています。

＊「日本語表現」の小テスト…漢検２級と語検３級の出題範囲に準拠した小テストを、半期で計10回実施しています。

ズーム!ズーム!!

「日本語表現」全9科目から毎号1科目ずつを取り上げ、授業の様子を詳しくお伝えします。

日本語表現C2〈スピーキング〉

（2～4年開講）

「日本語表現C2〈スピーキング〉」は、〈伝わる話し方〉を学ぶ科目です。ナレーションやインタビュー、グループディスカッションなどの実践的な授業を通して、考えを明瞭なことばと話し方で伝えるスキルが身につきます。今回はそのなかから、朗読の手法を学ぶ様子をご紹介します。

「日本語表現」科目の全体像

基礎	テクニカルコース	日本語表現T1
応用		日本語表現T2
発展	アカデミックコース	日本語表現A1〈ライティング〉
		日本語表現A2〈スピーキング〉
		日本語表現A3〈リーディング〉
	ビジネスコース	日本語表現B1〈ライティング〉
		日本語表現B2〈スピーキング〉
	クリエイティブコース	日本語表現C1〈ライティング〉
		日本語表現C2〈スピーキング〉 コレ!

ズームアップ!

日本語表現C2 授業の流れ

ここがポイント

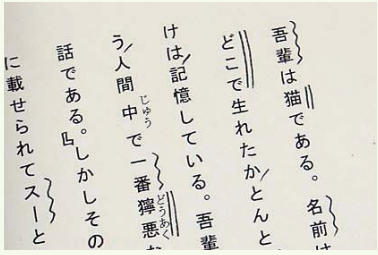
STEP 1 今回は、小説『吾輩は猫である』の朗読を通じて、聞き手に豊かなイメージを喚起させる話し方を学びます。

STEP 2 初めに全員が起立して発声練習をおこないます。

STEP 3 朗読する姿が互いに見えるよう、円卓状に着席します。

STEP 4 朗読の際、抑揚や間を表す専用記号を用います。その使い方を教員が説明します。

STEP 5 台本に記号を書き込みます。教員から「擬音の強調が効果的」とのアドバイス。



STEP 6 ペアを組んで練習開始。聞き手は目を閉じ、朗読から場面をイメージします。

STEP 7 本番です。教員は、学生が朗読する様子を録画します。

STEP 8 録画を鑑賞しつつ、教員が講評します。「間の長さがコントロールできるといいね」。

授業担当者からのメッセージ

全学日本語教育部門　講師（非常勤）
萩原千恵

同じ「発話されたことば」でも、相手に印象的に届くことばとそうでないことばとがあります。この授業を通じて自分の発話の個性や特徴を把握し、どんな場面でも自信をもって話ができるようになってもらえたら何よりです。

書く書くしかじか…
学生から、教職員から

採点アシスタント業務に携わって

ビジネス学部4年
神谷妙子

昨年度から１年生対象の「日本語表現」科目で実施される小テストの採点補助業務に携わってきました。この業務を通じて、後輩のみなさんの学修支援に関わることができたことを、非常に嬉しく思っています。

業務の際、受講生の成績に応じたコメントを記すようにしています。得点が低い学生には奮起を促すコメントを、一方、好成績を維持している学生にはモチベーションの維持を期待するコメントを記しています。そうした学生が、翌週のテストで正答数が上向くと、自分のことのように嬉しく感じます。

採点アシスタント業務では、受講生の氏名や成績を扱います。そのため、責任ある仕事を担う覚悟と信用が問われます。任期中は、常にそのことを忘れず、業務にあたることができたと思っています。

私は来年３月に卒業します。採点アシスタント業務に従事し、期待された役割を全うできたことで、自信を持って社会人としてのスタートを切ることができそうです。

Poorを自覚して

文学部英文学科教授
太田直子

大学生になって初めての課題は「英文学科に入った理由」という英語レポートでした。真っ赤になったレポートは“Poor English Writer”という恐ろしい文字とともに返ってきました。文法的な間違いよりも、論理的でないこと、文章が幼稚であることなどが指摘され、一からの書き直しが必要でした。“Poor Writer”にショックを受け、“Poor”を自覚した貴重な経験でした。

それからウン十年。学生のレポートを見る側になって、改めて「日本語」の大切さを実感する日々です。成長過程に応じ、教育課程に従って学び、修正され、培われてきた日本語、そして思考力は、外国語習得の礎でもあります。学生は「英語がペラペラになりたい」と訴えてきますが、「日本語はペラペラ？」と聞き返したい気持ちをぐっと抑えて、まずは、ことばを、日本語を大切にしなさいと話すことにしています。けれども、そういう私自身も、未だに“Poor”という単語に悩まされる日々です。“Excellent”、いや、せめて“Good”に近づきたい。

といってこの文章……。

インフォメーション

☆日本漢字能力検定学内団体受検（6月30日実施）結果

受検者280名（2級・準2級合計）
2級合格者79名（合格率30.4%）
上位成績表彰
最優秀賞　寺田真衣さん（交流文化学部３年）
ほか、優秀賞３名、努力賞５名

☆平成25年度前期「愛知淑徳大学図書館〈書評〉大賞」受賞者決定（主催：図書館、協力：全学日本語教育部門）

応募総数199件の中から、以下の10名が選ばれました。
大賞　富中佑輔さん（文学部国文学科1年）
準大賞　辻　美里さん（文学部国文学科3年）
高木万葉さん（ビジネス学部3年）
山本宗由さん（文化創造研究科博士前期課程1年）
ほか、佳作６名

☆『中日新聞』に学生の投稿文が掲載されました

大野紗矢香さん（ビジネス学部1年）
「自分から動く人になりたい」（5月18日朝刊「ヤングアイズ」欄）
夏目理沙さん（文学部教育学科1年）
「恩師目指したい」（5月11日夕刊「ハイ編集局です」欄）

☆本部門の取り組みが紹介されました

2013年データベースセミナー
「アクティブ・ラーニング時代の図書館」
主催：株式会社紀伊国屋書店
東京会場：7月19日、大阪会場：7月26日
※朝日新聞社プレゼン「聞蔵Ⅱの新機能と教育・学習支援」で、データベースを利用したアクティブ・ラーニングの事例として、本学の「日本語表現」科目が紹介されました。

編集後記

巻頭特集では、学修成果を授業外で測定する機会として「検定」を紹介しました。合格者のインタビューからは、検定が成果を測る機会であるだけでなく、受検に挑んだ経験が新たな目標につながることも伝わりました。学生には、今後も授業内外での営みを通じて、ことばに対する意識とスキルを高めていくことを望みます。（森本俊之）

発行年月日　2013年9月30日
編集／発行　愛知淑徳大学全学日本語教育部門
〒480-1197 愛知県長久手市片平９
TEL：0561-62-4111（代表）
nihongo@asu.aasa.ac.jp